

平成27年6月
第5号

地域公共交通東北仕事人メールマガジン

こんにちは。

地域公共交通東北仕事人 事務局です。

『地域公共交通東北仕事人メールマガジン第5号』をお届けします。

本メルマガでは、最新の交通政策や旬のコラムなど、東北運輸局ホームページ
(<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/koukipagetop.html>) で発信
している情報をいち早くお伝えしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

第5号目次

- 仕事人コラム：バスがゆく道 ～“路線バス”から“乗合バス”へ～
＜地域公共交通東北仕事人（特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター）
常務理事 若菜 千穂＞
- 我が町紹介： 福島県石川町総務課 <矢内 清春>
- トピックス：「地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画作成のための手引き」
が策定されました。
- 編集後記



☆仕事人コラム：バスがゆく道 ～“路線バス”から“乗合バス”へ～

特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター

常務理事 若菜 千穂

仕事人コラム、お初にお目にかかります。岩手から若菜です。

6月というのに、岩手でも昼間は真夏のような暑さです。水が張ったばかりの水田の水面を渡る風の涼しさが心地よい季節になりました。

普段、岩手県内外、海から山まで路線バスなどの公共交通を元気にするお手伝いをしています。バスのお手伝いをするようになって早10年ほどが経とうとしていますが、当時は“過疎バス”という単語がよく目についていましたが、今はすっかり見られなくなりました。田舎を走るバスをみる目も、そのイメージもこの10年でなんだかずいぶん変わってきている様な気がします。実際、私がお手伝いしている地域でも、人口が減り、高齢化も相変わらず進む中で、路線バスなどの公共交通を利用する人が増えているところがちらほらとでてきました。どんなに人が減っても、どんなに乗る人が減っても、「路線バスってなくなるのかもしれないかも…」 そう思うようになりました。

今から5年ほど前の春、花巻市東和町を走るバスに乗っていた時のこと。花巻市街から東和町へ帰る夕方4時頃のバスに乗っていたのは私を含めて3人だけ。東和町に入る小さな峠で、誰も降りるボタンを押していないのに、バス停で停まりました。見るとバス停に一人の男子高校生が立っていました。彼はバスに乗り込むと、椅子に座らずに運転手さんのところに行き、なにやら話し込み始めました。白いワイシャツを着て、礼儀正しく運転手さんに話す横顔は少し困った表情です。どうやら、この前のバスに乗った時に傘を置き忘れてしまったようで、そのために次のバスが来るまで待っていたとのことのことでしたが、運転手さんが話の要領を得るまでに数分の時間が経ちました。その間、バスはバス停でドアを開けたまま立ち往生。これは難題、と私はひやりとしました。営業中のバス車内という限られた時空の中で、この少年にどのように対応できるか。

白いワイシャツと同じくらい純粋そうな少年は、忘れ物をしてどうしたらよいか分からずに、とにかくバスが来るのをずっとここで待っていたのです。(これが大人なら、バス停に書かれた電話番号にとりあえずスマホで電話をかけるということをしたはず…。)どうか、運転手さんがこの純真な少年が路線バスを嫌いにならないような対応をしてほしい、でも、どうしたらいいのか…。心の



写真1 遠野市内のバス待合所



写真2 由利本荘市循環バス「ごてんまり号」の車内に飾られた“ごてんまり”

中で私が天を仰いでいた時、運転手さんは、すぐに運転席から立ち上がり、困った様子の少年の話の正面から聞き、一度「そうか、そうか」と聞いた後、このバスは前のバスと車両が違うこと、少年が乗ったであろうバスが今どこにいるか、そこに忘れ物があるかどうかの確認の仕方と受け取り方を丁寧に紙に書いて少年に教えました。少年は頭を下げ、お礼を言いながらバスを降りて行きました。5分か10分程度の他愛ない出来事だったかもしれないけれど、なぜか今でもその時の少年と運転手さんのやり取りを今でも時々思い出します。

なぜ、忘れがたいのか。それは、席を立ち上がって、少年の話に丁寧に耳を傾けた運転手さんの姿に、運転手さんは「バスの運転手」という生き物ではなく、「普通のやさしいおじさんがバスを運転しているのだ」ということを改めて知った衝撃と、バスに忘れ物をしたからと次のバスを待つ少年の無鉄砲・・・いえいえ、純真さへの驚きかなと、今考えれば思います。

高校に入りたての少年にとって、バスを運転しているのは企業や事業者というような難しいものではなく、バスはいつでも行ったり来たりしている「猫バス」のようなひとつの安定した乗り物ということ。乗る人にとって、自分を運んでくれる「あたたかい乗り物」というこの信頼の純真さに、私は今でも驚いています。何よりも守りたいのは、あたたかい信頼だとも思っています。

もうひとつ忘れられないのは、岩手県奥州市内の市街地から郊外の農村へ帰るバスに乗っていた時のこと。バスに乗ろうとしたおばあさんが、2段のバスステップを上れずに、乗車口で四苦八苦していました。それを見た乗客は、みんなでわらわらとおばあさんに駆け寄り、「おばちゃん、大丈夫？ゆっくりでいいよ」と言いながら、手をひいたり、荷物を代わりに持ったりして席に座らせてあげました。そのあまりの素早さに、「さすが、ここはみんな親戚なのかぁ〜」と思っていたら、みんなただただ乗り合わせていた乗客だと分かり、胸が温くなりました。

バスがなくなることがないとしたら、バスが自動車に勝てる力があるとしたら、私はこの「誰かと乗り合っている空間と時間」だと思っています。三陸沿岸のおばあさんに言われたことがあります。「一人で暮らしてさみしいと思うことはないけれど、バスに乗ってみんなでおしゃべりすることで、はじめて人間になる気がする。」

だから、一般には「路線バス」と呼ばれることの多いバスが「乗



写真3 バスに野菜の苗の運搬をお願いするおばちゃん（奈良県十津川村）



写真4 そして運ばれていく苗っこ（奈良県十津川村）

合バス」「のりあいバス」と呼ばれるようになることが、バスが目指していく方向だと思います。（業界的には「乗合バス」と呼ぶのも、意外と本質をついたいい言葉ですよ。）

自動運転の車で自由に出かけられる未来が来ても、たぶん、人はお金を払ってバスに乗ると思います。

注：写真について触れませんでした、これについてはまたの機会に。

☆「わが町紹介」

福島県石川町 総務課 主査 矢内清春

◎地域公共交通に関する現状

福島県石川町は、阿武隈高地の西側に位置し、総面積は115.71km²で阿武隈川流域の平坦地と阿武隈高地に連なる山間地から形成され、市街地は町のほぼ中央に流れる今出川に沿って開けている、人口16,434人の町である。

町の中央を流れる北須川、今出川の川沿いには約2,000本の桜が咲き乱れ、県指定天然記念物に指定されている樹齢500年の「高田桜」をはじめ1本桜の銘木も各地にあり、春には多くの観桜客を魅了している。

公共交通機関は、鉄道1路線（2駅）、バス12路線（国県補助対象路線1路線）、タクシー2社があるが、町民（高校生を除く15歳以上）の4人に3人が自家用車を持っているなど高いマイカー普及率に加え少子化などにより、公共交通機関の利用人数はいずれも減少傾向である。

高齢化が進む中、自家用車の運転をやめたくてもやめられない高齢者が存在しているが、鉄道、バスにおいては利用者減少に伴い運行本数が減少している。路線バスは幹線道路しか運行していないなど公共交通機関の使い勝手が悪いことから、過度の自家用車依存を引き起こし自家用車なしでは移動できない状況である。



(写真5・6：川沿いに咲き誇る2,000本の桜)

◎現在の取組内容

一人でも多くの町民が自家用車に乗らなくても生活できる環境づくりを目指し、平成25年度に石川町地域公共交通総合連携計画を策定した。連携計画では、クルマに乗らなくても生活できる環境づくり、地域公共交通を多くの町民が利用する雰囲気醸成、町民・事業者・行政で地域公共交通を作る仕組みの構築を目標とし、目標達成のために乗継拠点の整備、ダイヤ・ルートの改善、幹線道路沿線以外への対応、買い物支援交通の新設、モビリティマネジメントなどの実施を予定している。

ただし、平成26年度の再生法の改正により網形成計画の策定、再編実施計画の策定が必要になったことから、平成27年度は、具体的施策の展開に先駆けこれらの計画策定を

優先して着手することとした。特に町の負担が増大する路線バスについては路線の抜本的な見直し等の検討を進めていく予定である。

◎施策の推進上の課題

路線バスにおいては12路線のうち11路線が複数の市町村をまたぐ長距離路線となっており、また、同一市町村へ複数路線が重複している路線もあるなど、輸送量低下の要因となっていることから、関係市町村協議を進めるうえでその調整を検討しなければならない。また、国県補助該当路線が1路線しかないなど、ほぼすべての路線が一桁台の輸送量となっており町財政負担も増加しており、重複路線の整理、再編実施計画策定による利用しやすい交通ネットワークの再構築の検討が急務となっている。

再生法の改正を受け、今年度は、網形成計画、再編実施計画の策定に取り組み、補助金を活用した上で町の財政負担を抑制しつつ、交通空白地域を作らない交通政策を検討しているが、再編実施計画認定のハードルが相当高いという情報もあり、本町のような小さな自治体としては不安である。

しかし、これ以上町の財政負担を増やせないこともあり、輸送量15人に満たない路線を多く抱える中山間地域の交通ネットワークを今後どのように構築していけばいいのか、人口減少にも対応できるネットワークの構築に頭を悩ませるばかりである。

☆「地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画作成のための手引き」が策定されました。

(URL: http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000058.html)

この度国土交通省では、「地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画作成のための手引き」を策定しました。

この手引きは特に、「初めての公共交通に関する計画の策定で、何から手を付けてよいかわからない方」・「公共交通専任の担当者が1名又は担当不在の地方公共団体」を対象としたものとなっております。

我々としても参考となる内容が多く、特に「入門編」については両計画の策定を予定していない場合であってもお読みいただければと思います。

☆編集後記

皆様お久しぶりでございます。

平成27年度も2ヶ月が過ぎましたが、今年度も地域公共交通の確保・維持・改善のため頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

さて、今回のトピックスは手引きの紹介で終わってしまいましたが、今年度も昨年度同

様、仕事人会議やシンポジウム等より良い地域公共交通のためにイベントを開催していく予定です。決まり次第ホームページ等で順次お知らせしていきますので、是非ご覧下さい。

また、今回の「わがまち紹介」では、石川町の矢内様から、ご自身の悩みを含めた投稿がありました。面的な再構築が行われる必要があるため再編実施計画認定のハードルが高いことは否めませんが、その悩みを共に考え解決するために、東北運輸局はいつでも動き出す所存です。

お悩みや疑問等ありましたら、いつでもお問い合わせください！！

■このメールは、東北運輸局企画観光部交通企画課アドレスから発信しています。

■本メールサービスの解除を希望する方はお手数ですが、下記メールアドレスにその旨ご連絡ください。

tohoku-kikaku@mlit.go.jp

■最新の情報は東北運輸局ホームページをご確認ください。

国土交通省ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/>

東北運輸局ホームページ：<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/index.html>

お問い合わせ：tohoku-kikaku@mlit.go.jp

■このメールの配信を希望される方、記事に掲載を希望される方はこちら

tohoku-kikaku@mlit.go.jp

■配信元：国土交通省東北運輸局・地域公共交通東北仕事人事務局

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright (c) 国土交通省東北運輸局

